

久留米工業高等専門学校	開講年度	平成30年度(2018年度)	授業科目	経済学
科目基礎情報				
科目番号	4EG09	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科	対象学年	4	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	テキスト: 松尾 匠、橋本 貴彦『これからのマルクス経済学入門』(筑摩選書) 2016年			
担当教員	松下 愛			

到達目標

- ①経済学とはどのような学問かを理解する。
- ②マクロ・ミクロ経済学の基本的な考え方を理解する。
- ③経済現象を経済学的に把握する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	マルクス経済学の概念を理解し、資本主義経済を説明できる。	マルクス経済学の基本概念を理解できている。	マルクス経済学の基本概念を理解できていない。

学科の到達目標項目との関係

JABEE B-1 JABEE G-1 JABEE G-2

教育方法等

概要	昨年度までは、いわゆる「近代経済学」の基本概念についての学んできた。そこで本年度の本講義では、マルクス経済学の基本的な考え方を学びます。マルクス経済学の基本的な見方・考え方を修得して、資本主義経済の本質を理解することを目的とします。
授業の進め方・方法	講義は、基本的に受講生がレジュメを作成し、発表する。発表者以外の受講者には講義中に発言を必ず求める。議論に参加しない受講者は不合格となる可能性がある。成績評価は、発表(50%)、議論への参加(20%)、レポート(30%)の割合で算出する。60点以上が合格となる。なお再試は行わない。
注意点	成績評価はレポートによる。レポートは、マルクス経済学の基本的な概念を論述したうえで、その矛盾を説得的に説明すること。なお基本的な概念は以下の通りである。「史的唯物観」、「階級」、「労働疎外」、「労働価値説」などである。

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週 イントロダクション	
		2週 階級と所有①	階級と所有の関係について理解できる
		3週 階級と所有②	同上
		4週 疎外論と唯物史観①	労働疎外について理解できる
		5週 疎外論と唯物史観②	唯物史観の公式を説明できる
		6週 疎外論と唯物史観③	労働疎外を唯物史観のなかで把握できる
		7週 投下労働価値概念の意義①	労働価値説の基本概念について説明できる
		8週 投下労働価値概念の意義②	同上
	4thQ	9週 投下労働価値概念の意義③	剩余価値について理解できる
		10週 投下労働価値概念の意義④	搾取と労働価値説の関係を説明できる
		11週 マルクス経済学で日本社会を数量分析する①	数理マルクス経済学の基本を理解できる
		12週 マルクス経済学で日本社会を数量分析する②	同上
		13週 マルクス経済学で日本社会を数量分析する③	同上
		14週 マルクス経済学で日本社会を数量分析する④	同上
		15週 まとめ	マルクス経済学を体系的に理解できる
		16週	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	20	0	30	100
基礎的能力	0	50	0	20	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0